

第 26 回日本精神科看護専門学会に参加してきました。

精神科認定看護師 池田 聖子

11/9～10 青森市のリンクステーションホール青森で、日本精神科看護専門学会集会在開催されました。「認知症高齢者の医療上の意思決定支援」と題し、井藤佳恵先生の学術講演がありました。「看取る」のは他者であり本人ではないこと、覚悟は揺らぎ、意思は変わること等から、看取りの過程では、関わる全ての人の相互的な了解が成立していることが大切であるということ学びました。日々の看護が意思決定支援の連続であり、患者さんが願いを持てる状況を準備すること、願いが叶うと思えることが意思決定支援の前に大切と聞き、自分自身の看護を振り返るきっかけにもなりました。

「家族支援の意義」をテーマに、パネルディスカッションが行われました。患者さんの疾病回復、退院と地域生活の維持、再発予防では、家族支援が重要であり、患者さんと家族が安心して暮らせる地域づくりをめざし、家族支援の意義及び家族支援の視点などを学ぶことが出来ました。

当院からも 2 例看護研究発表がありました。冷たい風が強くととても寒い 2 日間でしたが、全国から集まった精神科看護に携わるみなさんの情熱を感じ、私自身も刺激を受け帰ってきました。



名物の帆立の貝焼きと青森ベイブリッジ

